

随想

日本のGDPは二〇位

モノづくりが得意なわが国は何を考えるべきか

株PQC研究所 加藤 宏光

昨年十二月二十二日に、内閣府が発表した日本の二〇一五年度の一人当りGDPはドル換算で、三万四、五二二ドルで経済協力開発機構(OECD)加盟三十五か国の中で二〇位だったと発表した。二〇一四年に對比しての円安が進んだことによる。円ベースでは四一七万八、〇〇〇円で三・四%伸びたが、ドルベースでは九・六%減でこれが大きく影響した、という。

OECD加盟国でトップはルクセンブルクの九万九、九〇〇ドル、アメリカは五万六、一〇〇ドルの五位、イギリスは四万三、九〇〇ドルで一位、韓国は二万七、二〇〇ドルの二二位であった。日本のGDP総額は四兆三、八三六億ドルで、世界全体の五・六

%、順位は三位。アメリカは一八億三六六億ドルでトップ。中国は一兆七億ドルで二位だった(平成二十八年十二月二十五日東京新聞朝刊、七面)。

ドイツ(八、一〇八万)、ベルギー(一、二二二万)、フランス(六、二八一万)、ニュージーランド(四四四・五万)、イスラエル(八一五・七万)、日本(一億二、七二一万)である。

リストで日本までの順位と人口を確認すると、ルクセンブルク(五七・六万)、スイス(七八七・〇万)、ノルウェー(五一〇・九万)、アイルランド(四九・三万)、アメリカ(三億一、六九四万)、デンマーク(五七〇・七万)、オーストラリア(二、四二四万)、アイスランド(三一・九万)、スウェーデン(九五九・六万)、オランダ(一、六四八万)、イギリス(六、三二八万)、オーストリア(八三六・四万)、カナダ(三、四一三万)、フィンランド(五三二・六万)、

きなくなる。そう感じて、あえて手を出さずにきた。本格的に発酵メカニズムを勉強しようと思ったのは、東日本大震災直後で、それから足掛け五年になる。手掛けてみると、ファジーで、アナログで計算どおりいかない。そこが面白い。四経営体のコンポスト製品を使用した作柄比較は今年で四年目。あえてコインとナスを盆前に、白菜とキヤベツを秋から年末にかけて、連作で栽培している。それぞれ

の肥料にはそれぞれなりの個性があり、作柄や味にも微妙な差がある。官能検査結果を自分の味覚と対比すると、農業の面白さが肌で感じられる。こんな面白い産業が、低所得であること自体が不審であるが、改めてモノづくりと金づくりは異なることを実感させられる。

先年のデータでデンマークやフィンランドがGDP上位を占めている。これらの国は人口で見ると限りの小国で、決してモノづくりで稼いでいるように見えない。一昨年、デンマークのコペンハーゲン大学の教授・アンドリュース・ボヤーセン博士が家族連れで来日された。彼は、五〇歳すぎの新進気鋭研究者でマンヘミア(かつてはパストレルラに分類されていた)のオーソリティーである。その彼がおよそ二週間のスケジュールで日本に滞在。サークルチケットや格安ツアーをインターネットで予約して来日し、家族一同で縦横無尽に日本中を動き回った(それこそ神出鬼没である)。その夏二度目の家族での海外旅行という。全体では優に一月を超える休暇を満喫していることになる。

米経済型に移行した結果なのかもしれない。

現在のパートタイマー時給は関東の過疎エリアでも、八五〇円を超えている。本日、研究所への道すがら中規模採卵養鶏場に立ち寄った。丁度今日、男性が一名退職したとのこと。基本的に人手不足で稼働するのが常である現場はテンヤワンヤであった。年末でもあり、募集をかけても応募すらない、と嘆いておられた。

モノを生産するのと、モノを金に替えるのは異なった次元にある。マニユファクチャー以来生産工程が機械化されて、大量生産が容易になった。規格製品を大量かつ安価にできる時代で

フィンランドに、知り合いの知り合いがいる。生活保護を受けているが、まだ三〇歳台半ばで生活保護を受け始めた。毎日日曜大工をしているそうである。社会給付を受けることにもうも抵抗を感じていないような生活ぶりを見聞きすると、わが国とは何か違ふと感してしまふ。北欧の諸国では税金が高い。四〇〇万円程度の年収でも四〇%近いと聞いた。とても自前で車を買えない。カローラクラスの車をお隣さんとカーシェアしている。加えて、消費税も高い(食品等は安い)、コーヒーマシンでホットドッグとコーヒートをオーダーすると、二人で二、五〇〇〜三、〇〇〇円ほど取られる。しかし、このような税制と可処分所得について、先のボヤーセン教授は不満を感じないという。

著者が鶏糞発酵に興味を持ったのは四〇数年以上の創業時であったが、なにぶん鶏糞発酵は不確定要素が多い。うかつに手掛けると、他のことが何もで

金に替えるのは異なった次元にある。マニユファクチャー以来生産工程が機械化されて、大量生産が容易になった。規格製品を大量かつ安価にできる時代で

著者が鶏糞発酵に興味を持ったのは四〇数年以上の創業時であったが、なにぶん鶏糞発酵は不確定要素が多い。うかつに手掛けると、他のことが何もで

著者が鶏糞発酵に興味を持ったのは四〇数年以上の創業時であったが、なにぶん鶏糞発酵は不確定要素が多い。うかつに手掛けると、他のことが何もで

著者が鶏糞発酵に興味を持ったのは四〇数年以上の創業時であったが、なにぶん鶏糞発酵は不確定要素が多い。うかつに手掛けると、他のことが何もで